

『柔和なる者、愛ある者』～『他人の苦痛に対する思いやり』～

2023 年 7 月 11 日 羽田空港から出雲空港に向い、出雲市大社町鶴峠(うど)の実家に帰郷した。息子達も同伴し久しぶりの帰郷となった。出雲空港で息子がレンタカーを借りて、途中、日御碕、出雲大社に寄った(添付)。夜は、実家で、姉たちと夕食の時を持った。翌日(7 月 12 日)は、島根大学医学部の医学科看護学科 1 年生の授業【医療倫理プロフェSSIONナリズム:『がん哲学～コロナ時代の哲学～』】に赴いた。息子達も聴講させて頂いた。大変良き思い出となった。

多数の質問があり、真摯な学生の姿勢には大いに感動した。筆者が医師を目指した理由と臨床医でなく病理医になった理由も聞かれた。【今から 1300 年以上前、712 年に編纂された『古事記』に登場する、医療の原点を教えてくれる大国主命の出雲大社から、8 キロほど、峠を越えて美しい日本海に面した小さな村が、筆者の生まれ育った出雲市大社町鶴峠である。隣の鷺浦地区と合わせて、鶴鷺(うさぎ)と呼ばれている。713 年に編纂が命じられたという『出雲国風土記』にも登場する歴史ある地である。鶴峠は、無医村で、人口も 40 人を切り、60%以上の空き家である。】&【『因幡の白兔(うさぎ)』(添付)物語から、『最も剛毅なる者は最も柔和なる者であり、愛ある者は勇敢なる者である』&『他人の苦痛に対する思いやり』は、医学、医療の根本である。】とさりげなく語った。10 年前の 2013 年に【神在りの国・がんメデイカルカフェ開設記念特別講演『がん哲学外来カフェ～医療の懸け橋～』】(島根大学医学部附属病院に於て)の機会が与えられたことが鮮明に蘇った。不思議な時の流れを実感する日々である。

授業の後、鬼形和道 医学部長と面談した。鬼形和道先生の故郷は、新島襄(1843 - 1890)と同じ群馬県の安中であり、新島襄のことで大いに話が盛り上がった。授業を担当された総務課秘書からは、早速、【お忙しい中、遠路ご来学いただきありがとうございます。昨日の授業では大変お世話になりました。出雲ご出身の先生に伺うお話は、県外出身者の学生が多い医学部 1 年生ですが、島根の医療、その他の面にも興味や視野が広がる素晴らしいきっかけになったと思います。】との心温まる励ましのメールを頂いた。ただただ感謝である。

